

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 いかげせむ
①なぜだろうか ②どうしようか ③どこだろうか ④そうだろうか
- 2 なじ
①どうして ②いつも ③本当に ④やはり
- 3 ありし
①かつての ②さっきの ③いつもの ④子どもの
- 4 さるべき
①そうではない ②そうなるはずの ③そうなりそうな ④そういうことなら
- 5 なでふ
①結局 ②どうして ③本当に ④あれほど

「B」次の文の「訳」の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 いざたまへ、出雲拌みに。(徒然草)
(訳)「」。「」。出雲(神社)を参拝しに。
①さあ、一緒にいらっしやい ②さあ、いつものように
③さあ、行ってください ④さあ、どうしましょうか
- 7 例のことどもして、昼になりぬ。(土佐日記)
(訳)「」。「」ことをあれこれしていると、昼になった。
①すべての ②こんな ③いつもの ④さまざま
- 8 正直の人、などかなからむ。(徒然草)
(訳)正直な人が、「」いないだろうか(いや、いないはずはない)。
①そんなにも ②どうして ③やはり ④もう
- 9 祇王もとより思ひまうけたる道なれども、さすがに昨日今日とは思ひよらず。(平家物語)
(訳)祇王は以前から覚悟していたことではあるが、「」昨日今日(のこと)とは思ひもよらない。
①なるほど ②そうはいつてもやはり ③早くも ④まさか
- 10 養ひ飼ふものには、馬・牛。つなぎ苦しむこそ痛ましけれど、なくてかなはぬものなれば、いかがはせむ。(徒然草)
(訳)(家畜として)飼育するものには、馬と牛(がよい)。つないで苦しめることはかわいそうだが、なくてはならないものだから、「」。
①どうにでもなる ②どうにかしなくてはいけない ③どうすればいいのか ④どうしようもない
- 11 音に聞く人なり。何事によりてぞ来たれるぞ。(宇治拾遺物語)
(訳)「」人だ。何の用事で来たのか。
①うわざどおりの ②耳ざとい ③評判の高い ④騒々しい
- 12 かつあらはるるをも顧みず、口に任せて言ひ散らすは、やがて浮きたることと聞こゆ。(徒然草)
(訳)「」。「」(嘘が)ばれていくのを気にかけて、口から出まかせに言い散らすのは、すぐに根拠がない話だとわかる。
①すぐに ②しだいに ③その上に ④すべて
- 13 「さらば、そのありつる御文を給はりて来」となむ仰せらるる。(枕草子)
(訳)「それならば、その」。「お手紙をいただいで来い」とお命じになられます。
①さっきの ②昔の ③いつもの ④すべての
- 14 むなしう帰り参りたらんは、なかなか参らざらんよりあしかるべし。(平家物語)
(訳)(成果もなく)むなく(帝のもとへ)帰参したとしたら、「」帰参しないようなのより悪いだろう。
①すぐに ②おそらく ③まったく ④かえって
- 15 さるべき人は、とうより御心魂のたけく、御守もこはきなめりとおぼえはべるは。(大鏡)
(訳)「」人は、早くから胆力が強く、神仏のご加護も強いようだと思われますよ。
①頼れる ②昔の ③立派な ④普通の

15 「」

【新一年生用】 古文単語303訂版 P 144、P 151

- 1 (②)
- 2 (①)
- 3 (①)
- 4 (②)
- 5 (②)
- 6 (①)
- 7 (③)
- 8 (②)
- 9 (②)
- 10 (④)
- 11 (③)
- 12 (①)
- 13 (①)
- 14 (④)
- 15 (③)